



愛知県遊技業協同組合
「地域における社会福祉等の向上を目的とした
継続的資金支援」事業



愛知県遊技業協同組合
理事長
西原英烈さん

社会福祉に携わる諸団体の
活動資金を支える福祉寄金

31年目を迎えた福祉寄金の贈呈

社会福祉とは、ごく一般的に言えば、さまざまな生活上の困難や障害に対し、その解決や緩和を目指して展開される社会的な施策や援助活動の総体である。それは人間社会が生み出した崇高な理念とも言えるが、その理念を達成するためには、資金が必要であることは言うまでもない。社会福祉に関する事業を展開しているところの多くは、活動資金の面で苦勞しており、その解決には継続的な支援が必要である。

愛知県遊技業協同組合(以下、愛遊協)では、その組織名がまだ愛知県遊技業協同組合連合会だった1983年に、地域における社会福祉等の向上を目的として、福祉活動を展開している団体に資金支援を開始し、愛遊協に名称を変更したあとも、途切れることなく継続して実施している。昨年で31年目を迎えた資金支援事業だが、その間の拠出金額は、約2億9650万円にのぼっている。この事業が定着し始めた頃は、資金支援対象は愛知県、名古屋市(ともに社会福祉関連機関)をはじめとする14団体であったが、2008年からは4団体増えて18団体となっている。

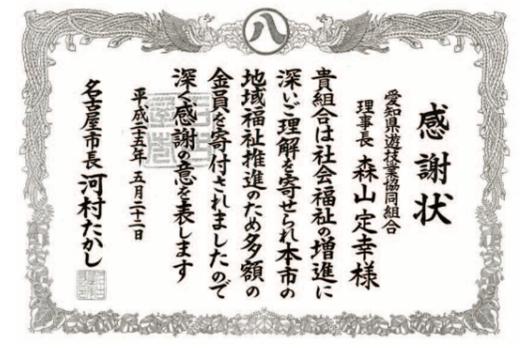
昨年は、愛知県、名古屋市、愛知県防犯協会連合会、暴力追放愛知県民会議、愛知県交通安全協会、愛知県少年補導委員会連合会、被害者サポートセンターあい



愛知県ほか、18団体に福祉寄金を贈呈



愛知県知事、名古屋市長から贈られた感謝状



ち、愛知県身体障害者福祉団体連合会、愛知県重症心身障害児(者)を守る会、愛知県重度障害者の生活をよくする会、愛知県更生保護事業連盟、立正園(更生保護法人)、名古屋市肢体障害者福祉連合会、名古屋市視覚障害者協会、中部盲導犬協会、AJU自立の家、愛知県体育協会、不老会の18団体に対して、資金が贈呈された。

贈呈先の団体名からもわかるように、その範囲・分野は、地方公共団体、障がい者団体、防犯・青少年健全育成、暴力追放、交通安全、犯罪被害者対策、医療関係、スポーツと、極めて広範に渡り、この福祉寄金が福祉向上に大いに役立てられていることが見てとれる。

継続的な資金支援の要望に真摯に応える

この福祉寄金は、毎年、愛遊協の総会の席で対象団体の代表者に贈呈されている。愛遊協の社会貢献活動では、2006年に第2回社会貢献大賞を受賞した「パチンコ大衆文化・福祉応援賞の贈呈事業」が愛知県民はもとより、全国のパチンコ・パチスロ業界の関係者につとに知られているが、それがあまりにも有名なため、同じ日に贈呈されるこの事業が、その陰に隠れてしまうという、なんとも痛し痒しな状況に置かれている。愛知県および名古屋市では、記者クラブに寄金受領の報道文を配布し、その発表を行っているが、結果としては報道関係者も「パチンコ大衆文化・福祉応援賞の贈呈事業」のほうを取材・報道するのが常となっているという。

しかし、福祉関係の団体からは資金的に厳しい状況の中で継続的な支援の要望が寄せられており、愛遊協としても、その要望に真摯に応えていくことが、自分たちに課せられた使命であると認識している。ひいてはそれが、業界や組合員の社会的地位向上にもつながっていくことは間違いなさだろう。

この福祉寄金は、とくに愛知県や名古屋市では社会福祉協議会の活動資金として有効に活用されているほか、昨今の経済状況の中で、寄付金が集まりにくい各団体にとっては欠かすことのできない活動資金となっており、大いに感謝されているという。その謝意を表すかのように、贈呈式では各団体を代表して、愛知県知事や名古屋市長から感謝状が授与されているほか、他団体からも感謝状が寄せられている。今後も末永くこの資金支援事業を継続することで、地域社会に貢献していくという。



あいさつを述べる大村愛知県知事